

## 新学部設置構想に関するパブリックコメントの結果

平成 29 年 9 月 25 日から 10 月 24 日までパブリックコメントを実施。

16 名の方から意見が提出された。意見の概要は下記のとおり。

項目	意見概要
設置の目的・育成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="304 465 1442 600">○ 国際経済学部を作ることには賛成。新潟はもちろん、日本にとっても前途有為な若者を輩出してほしい。くれぐれも看板倒れにならないようにしてほしい。【60代・女性】</li> <li data-bbox="304 651 1442 741">○ 東アジアの経済・産業や情報・ビッグデータをしっかり勉強した若者が育成されるのは良いこと。【70代・男性】</li> <li data-bbox="304 792 1442 1061">○ 地元の経済を支える人材を一人でも多く育成してほしい。東アジアでも欧米でも、厭わず突き進んでいく、元気のある若者を輩出してほしい。新潟には中小企業が多いが、そういうところでも、自分が会社を大きくするという意気込みがあり、それに加えて、経済や情報分析・ビッグデータの知識や、確かな英語力、地元経済や産業についての知識のある若者を育ててほしい。【不明】</li> <li data-bbox="304 1113 1442 1247">○ 県内高校生にニーズのある公立の国際経済学部の設置は、大いに賛成。理論だけでなく、地域の実情を理解し、地域で起業し地域を担い地域を活性化させる人材の育成を目指して欲しい。【60代・男性】</li> <li data-bbox="304 1299 1442 1478">○ 県立大学は、新潟県に根ざし、世界へ通用する人材育成を目的としている大学であることを在学中に実感した。今までにない学部であるのであれば、新設する意味は十分にある。今後変化の激しい世界を生き抜くためには、世界又は新潟の経済を正しく分析することは必要なこと。【20代・女性】</li> <li data-bbox="304 1529 1442 1798">○ 日本の市場が縮小していく中、東アジアとの経済交流を支える人材は重要性を増す。その意味で東アジアの経済・産業・企業に強いプロフェッショナルの育成を目指すことは正しい。個人的には、情報・データ分析の力と実体験に裏付けられた実践力を身に付けた「起業家」マインドのある若者を育成して、地域経済の活性化にすぐに貢献してほしい。「作っただけで終わり。」にならないよう、真剣に取り組んでほしい。【70代以上・男性】</li> <li data-bbox="304 1850 1442 1939">○ 「東アジアの経済・産業・企業に強い人材の育成」は、地元経済界にとって重要であり、意味のあること。【40代・男性】</li> </ul>

<p>設置の目的・育成する人材像</p>	<p>○ 若者の人口流出を食い止め、新潟の良さを発展させる取組のできる若者の育成を実現するため、「国際経済学部」の設置に賛成する。【50代・女性】</p> <p>○ 若者が一旦大都市圏へ出て地域に戻り仕事ができる環境を整えることと、地方の若者が地域に残り仕事をしたいと思ってもらうことが重要。そのためには、魅力ある大学と会社がたくさんあることが望ましい。</p> <p>資料には、高校生の志望に対し県内の定員枠が少ない分野として「経済・経営」がある。また、経済界から実践的な経済学・データ分析の教育が求められ、これが実現すると首都圏に進学する生徒が県内大学に志望先を変更する可能性が高いと書いてある。国際経済学部の設置を強く要望する。【60代・女性】</p> <p>○ 新学部設置等に賛成する。就職で県外に若者が流出するのを防ぐためにも地元新潟で働く人材を育成してほしい。【40代・女性】</p> <p>○ 「国際経済学部」設置及び「子ども学科定員増」に賛成する。人口減少、首都圏との格差拡大等の歯止め対策には、次世代を担う新潟県独自の人材育成が急務。地元の若者が不本意ながら県外に進学することのない、魅力ある受け皿を作ってほしい。【40代・女性】</p> <p>○ 一般の受験生にとってはインパクトが弱く、馴染みにくい。</p> <p>職種や業種事例を活用した方がよい。広く県外にも広報することにより、将来の新潟県へのIターン移住を意識した人材育成が図られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地方行政職員（地域の生き残りをかけ、インバウンドや、スポーツや医療を考えた観光施策など、外部から内部への経済効果を生み出す仕組みを学ばせ、プロフェッショナル行政マンを育成する必要がある。）</li> <li>・ 県内の特有かつ国際的な企業社員（構想段階からタイアップしていく企業との連携は必須。その企業名を挙げたらどうか。）</li> <li>・ 起業家（新潟県の若者が一番弱い部分。地域や国内のみならず、世界に目を向け、それをビジネスにしていく若者が求められる。）【50代・男性】</li> </ul> <p>○ 県内に経済・経営系（以下「経済系」という）の学部を有する大学が複数あるにも関わらず、県立大学に経済系の新学部を設置する必要があるのか。平成30年度には、新潟国際情報大学が経営情報学部を設置する予定であり、さらに増えることになる。県内私立大学に進学していた層を奪ってしまう結果にならないか心配。県内大学の他学部と競合せず、人気の高い公務員等への就職も期待できる、政治、政策系の学部を設置してはどうか。その他、全国的に数が少なく、かつ、就職にも有利な建築学部なども独自性をアピールできると思う。【30代・男性】</p>
----------------------	--

<p>学部名称・規模</p>	<p>○ 育成する人材像からすると、「北東アジア地域商経済情報学部北東アジア地域商経済情報学科」という名称が望ましい。コースも、「北東アジア商経済コース」、「データサイエンスコース」、「地域商経済政策・創生コース」の3コース制が望ましい。</p> <p>これにより、国際地域学部の国際社会コースと東アジアコースの一部が移ることになるため、国際地域学部 175 名程度、北東アジア地域商経済情報学部 100 名程度が望ましい。</p> <p>現行の国際地域学部は、2 学科制とし、国際地域文化学科（現行の比較文化コースの全部と東アジアコースの一部）125 名程度、国際環境政策学科（現行地域環境コースの全部）50 名程度とした方が良い。【30 代・男性】</p>
<p>教育内容と特徴</p>	<p>○ 語学が堪能というだけでなく、思考力や判断力、表現力が伴うものでなければならないと思う。授業にスピーチ、ディスカッションやディベートを取り入れてもらいたい。【60 代・男性】</p> <p>○ 県独自かつ内部を考えた科目が必要と感じる。国際人を育成する上で重要なのは、その土地や地域の実情を考え、行動できる人材。都道府県特有の衣食住の歴史や実態把握も必須。また、地域の課題を解決していくビジネスセンスの習得が求められる。さらに、雇用や人事管理、経営学も重要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学、通関士、初歩簿記</li> <li>・労働経済、労基法、入国管理法、社会保険、所得税法</li> <li>・地域学（衣食住）、地方自治、教育事情、福祉施策論、医療事情 等</li> <li>・地域の課題解決演習</li> <li>・NPO 論、NPO マネジメント、地域ビジネス論、防災</li> <li>・観光ビジネス、インバウンドシステム</li> </ul> <p style="text-align: right;">【50 代・男性】</p> <p>○ 「教育内容と特徴」に「国際地域学部との共通科目の制定」を追加すべき。共通して学ぶ科目・ゾーンを設置することによる国際的感覚部分における学部間交流や経費節減を目的とする。</p> <p>また、「情報・データを分析するための教育」の中に、（文系）数学教育に関する強化を入れるべき。情報・データサイエンス教育において、数学は必須であり、また、経済・経営教育における数学も年々重要性を増している。実学としても活かせるので要望する。【30 代・男性】</p>

<p>子ども学科定員増</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 乳幼児期の養護・教育は人格形成の基礎を培う重要な時期。質の高い養護・教育の実現の一つとして、新潟県立大学で学べる学生が増えることは、新潟県の教育そのものを高める良い取組と考え、賛成する。【50代・女性】</li> <li>○ 保育者不足のため、専門学校等で保育技術だけを学んで現場に出る人が多いように感じる。子どもの育ちを理解し、また、多様な価値観を持つ現代の保護者に対応する保育者の育成を望む。【40代・女性】</li> <li>○ 子ども学科の定員増については、慎重であるべき。ここ数年は保育士不足かもしれないが、今後、子どもの数は増えないのではないか。【60代・女性】</li> </ul>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国公立大学が定員を増やしてくれれば、多くの若者は県外に出なくても良くなる。【70代・男性】</li> <li>○ 地元の国公立大学に新しい学部ができ、高校生の選択肢が広がることは、県内高校生にとってよいこと。特に、県内では新潟大学以外の国公立大学に「経済」学部がなく、男子高校生にとっては朗報だと思う。 県内の小中高校生のために、国公立を問わず、大学同士が競い合い、切磋琢磨し、県外に行かなくてもやりたい勉強ができるような、よりよい教育環境を作ってほしい。【40代・男性】</li> <li>○ やむを得ず県外に出て行っている若者がいるとしたら、対策が必要。どのくらいの若者がやむを得ず県外大学へ進学しているかわからないが、印象としてはもっと受け皿を増やすべきではないかと感じる。県立大学で90人までしかできないのであれば、私立大学が頑張ればよい。私立大学も、「これだったら地元に残りたい」と思えるような「経済系」の学部・学科をつくるべき。県も、やる気のある私立大学を支援すべき。みんなが一致団結して取り組まなければ若者の流出は続き、長野、富山、石川にますます置いて行かれる。【60代・女性】</li> <li>○ 国際経済学部はぜひ作ってもらいたい。仕方なく県外に進学せざるを得なかった若者も少なくないと思う。県内に選べる対象が増えれば、県内に残って勉強したい人が残ることができる。【40代・女性】</li> <li>○ 今後18歳人口が減る中で、新学部を設置するのであれば、確実に一定の競争率と定員を確保できる見込みがあることが必要。新学部を設置せずとも、大学改革はできるのではないか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新潟空港に近い立地を生かして留学生と日本人学生を対象とした国際寮を設置する。</li> <li>・ 近隣で定員割れに悩む新潟北高校を附属高校にし、新大学入試制度に備えて確実な定員確保を図る。【30代・男性】</li> </ul> </li> </ul>